

第2回 氷見市総合計画審議会 会議録		
日 時	令和3年3月1日（月） 13時00分から15時00分まで	
場 所	氷見市ふれあいスポーツセンター 会議室	
出席者	委 員	伊藤宣良、上田兵吾、尾畑納子、河上昌俊、川田文人、河原朱里、菊川昌彦、佐伯三美子（代理：柿谷）、坂下明生、櫻田惣太郎、清水賢一、瀬戸健、高木陽子、高木義則、高嶋達（代理：七分）、釣谷聡、寺下利宏、中村和之、中村剛、西川扇博、野畑圭造、松井俊成、松波久善、松原勝久、盛永章祥、猶明孝信、吉崎一美、脇信昭（出席28名）（欠席2名：西山知克、森本太郎）
	市関係職員等	林市長 策定委員会委員（篠田副市長、鎌仲教育長、高橋政策統括監、京田企画政策部長、藤澤総務部長、澤市民部長、森田産業振興部長、釣賀建設部長、森川防災・危機管理監、川淵会計管理者、大門教育次長、横山消防長） 事務局（高野地方創生推進課長、尾山同課長補佐、田邊同課主査、大石同課主任、寺田同課主事、檜垣同課主事）
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議事 (1) これまでの取組について (2) 部会報告 (3) 第9次氷見市総合計画基本構想（案）について (4) 意見交換 5 閉 会	
資 料	【説明資料】 資料1 氷見市総合計画審議会第1部会の意見等について 資料2 氷見市総合計画審議会第2部会の意見等について 資料3 氷見市総合計画審議会第3部会の意見等について 資料4 第9次氷見市総合計画基本構想（案）について 【参考資料】 参考資料1 氷見市総合計画審議会第1部会会議録 参考資料2 氷見市総合計画審議会第2部会会議録 参考資料3 氷見市総合計画審議会第3部会会議録 参考資料4 氷見市総合計画審議会部会長会議録	

1 開 会

(司会)

ただいまから、第2回氷見市総合計画審議会を開催する。本日の進行をつとめさせていただきます。

2 会長あいさつ

(司会)

初めに、会長からご挨拶申し上げます。

(会長)

本日は、お忙しところお集まり頂き、感謝申し上げます。本日、第2回氷見市総合計画審議会を開催させて頂くことになった。第1回については、昨年9月に開催した。そこで様々な形で具体的なお意見を頂き、11月には各部会に分かれてそれぞれの論点を掘り下げて頂いた。基本理念、目指す都市像、基本目標について活発なお意見を頂いたことを承知している。また、先月2月3日に部会長、副部会長の皆様にお集まり頂き、各部会での検討の結果を踏まえて議論を交わした。

本日は、これまでの経緯について説明して頂き、基本理念、目指す都市像、基本目標、全体の基本構想案について審議をする予定にしている。基本構想は、総合計画の骨子となる。各委員はどのような未来を描いているのか、忌憚のない意見を頂きたい。本日は、よろしく願い申し上げます。

3 市長あいさつ

(司会)

次に、市長からご挨拶申し上げます。

(市長)

ご多用の中、氷見市総合計画審議会にご出席いただき、感謝申し上げます。

また、日頃から、市政の発展に格段のご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

この度、氷見農業遺産推進協議会が申請していた「氷見の持続可能な定置網漁業」が富山県内で初めて日本農業遺産に認定された。

これは、氷見の地で長年にわたり定置網漁と関わりながら営まれてきた農林業、水産加工業、食文化など氷見の暮らしそのものが認定されたもので、市民にとって大きな自信となり、誇りになるものである。

また、1月7日から11日にかけての大雪では、最深積雪は99cmとなり、6集落が一時孤立状態となった。

今年度策定している氷見市国土強靱化地域計画の中でも、起きてはならないリスクシナリオに「暴風雪や豪雪等に伴う多数の死傷者の発生」の項目を設け、脆弱性の評価や

推進方針に雪害に関する対策等を記載しており、雪害防止対策の充実を図ることで災害に強い地域づくりに取り組んでまいります。

また、海外との友好交流都市協定について申し上げますと、まず、昨年10月に、中華人民共和国浙江省寧海県と友好交流都市協定を締結した。

12月には、氷見市出身の実業家浅野総一郎翁が深くその発展に関わった台湾南部の港湾都市、高雄市の鼓山区との友好交流都市協定を締結した。

本市では、こうした海外都市との協定は初めてで、今回の海外2都市との友好交流都市協定の締結をきっかけとして、幅広い友好親善に加え、文化・民間交流の促進を経て、アフターコロナにおけるインバウンドの観光振興や経済交流へと発展していくことを期待している。

第9次総合計画では、引き続き、先人から受け継いだ歴史や文化、自然環境、人の絆、そして氷見ブリに代表される豊かな海、山の幸といった地域資源を次世代へ継承するための取組や安心・安全なまちづくり、そして幅広い交流なども行っていかなければと考えている。

本日は、基本構想（案）について、ご審議いただくこととしているので、委員の皆様方には、忌憚のない建設的なご意見などを賜り、今回策定する第9次総合計画が、市民が夢と希望を持てるような計画となるよう、お願い申し上げます、私のあいさつとする。

（事務局）

会議資料の確認

本日は、氷見青年会議所理事長の交代により、新たな理事長にご出席いただいている。本来であれば、市長から委嘱書をお渡しすべきところではあるが、時間も限られているので、お手元に配布させていただいている委嘱書をもって委嘱に代えさせていただきますこと、ご了解願う。

ご出席いただきました皆様方をご紹介すべきところではあるが、お手元の座席表および審議会委員名簿をもって紹介に代えさせていただきますこと、ご了解願う。

4 議事

（事務局）

それでは、ここから先は、氷見市総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、会長に議事の進行をお願いする。

（1）これまでの取組について（2）部会報告（3）第9次氷見市総合計画基本構想（案）について

（会長）

本審議会の委員は30名で、本日の出席委員は28名で、氷見市総合計画審議会条

例第5条第2項に規定する会議開催の定足数16名を満たしていることを報告する。

それでは、議題1「これまでの取組について」、議題2「部会報告」、議題3「第9次氷見市総合計画基本構想（案）について」を一括して、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

「資料1 氷見市総合計画審議会第1部会の意見等について」

「資料2 氷見市総合計画審議会第2部会の意見等について」

「資料3 氷見市総合計画審議会第3部会の意見等について」

「資料4 第9次氷見市総合計画基本構想（案）について」を説明)

（会長）

本日は、資料4第9次氷見市総合計画基本構想（案）は基本理念、目指す都市像、基本目標、政策から構成されているが、これについてご意見を賜る。

今回は、政策や基本目標、基本理念、目指す都市像の審議を充分尽くしたいと思う。政策の部分だが、ここには項目だけが書かれている。これを肉付けしていくために意見を頂き、どのように取り組んでいくか、目指すべきかをお聞きして、事務局で案を作成して頂く。

基本理念の案について、これまでの部会の検討状況を踏まえて作成して頂いているが、こういったものを入れた方が良い、こういうことを強調した方が良い等があれば、お聞かせ願う。

目指す都市像についても、もう少しこうであれば良いのにあるいはこれで良い等をお聞かせ願う。

できるだけ多くの皆様からご意見を頂きたい。

ご意見、ご質問をどなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。

（委員）

資料4第9次氷見市総合計画基本構想（案）の基本理念に「ICTの利活用などを通じて直面する様々な課題を克服し、」とあるが、ICTはインフォメーション&コミュニケーションテクノロジーで、メールやチャット、SNSを通じて人と人がつながるということが中心のものであり、これにIoT：インターネットオブシングス、例えば自動運転や安全で安心な生活のための在宅医療、スマート家電、人とモノがつながるような物が必要になってくると、ICTやIoTの利活用として頂いた方が適切だと思うので、ご検討願う。

（会長）

ICT、IoTを含み、AIや光学習、そしてその先にあるDXがある。狭い意味でのI

CTだけじゃなく、広い意味で情報技術の利活用を図るところが大事だということが伝わるような文言を考えて頂くのが良いと思った。

(委員)

これからの時代ICT、IoT、AIよりもDXの方が、状況を的確に表現できるのではないかと思う。

資料4の政策の中に「多様な人材の活躍推進」とあるが、「多様性」はキーワードだと思う。地方においてもその地域の発展を支えていくのは多様性ではないかと思う。基本理念の中にも「多様な人材」をぜひ、書き込んで頂きたい。基本理念の中に、「若者や女性がいきいきと活躍できるまちづくり」とあるが、ここに「若者や女性など多様な人材がいきいきと活躍できるまちづくり」という形で、多様な人材の活躍ということを基本理念の中にも入れて頂きたい。

(会長)

多様な人材というのは大変大事なものなので、政策の中の「未来技術の推進」についてもご意見ありました。また、「SDGsの推進」についても基本理念には明記されているので、「多様な人材の活躍推進」も基本理念に書き込んだら良いのではという意見なので、ご検討願う。

(委員)

今ほどの多様性のお話があったが、その通りだと感じた。基本理念の中に「人口減少を食い止める」とあるが、これが一番の課題として書かれていると思っている。人口減少に直接つながってくるのは、若者だと思う。出ていくのも若者、新たに世帯を持ち子どもを産み育てるのも若者。基本理念の中には、「若者や女性など多様な人材がいきいきと活躍できるまちづくり」と記されているが、この部分は氷見青年会議所でも問題視しており、大事なところである。いろいろな考えや価値観をもっている若い人達が、上の世代とコミュニケーションや交流を行っていかなければならないと氷見青年会議所でも考えている。若者が活躍できる場というのは、口で言うのは非常に簡単であるが、若者が主役になれる場所、行政やまちづくり、地域をつくっていく現場で若者たちが主役になって行ける場が絶対必要である。先ほど、基本理念中にも多様性という文言を入れたら良いのではないかという意見があったが、それと同様に若者というところにもっとスポットを当てて、基本理念や基本目標にもっと若者を強く表現して欲しい。

(会長)

今回、全ての部会を通じて出てきたワードが若い世代、そして若い世代が働く場、若い世代が活躍できる場であった。そういったことを踏まえると、今回項目しか立っていない

ない政策のところでも考えられることではないかと思うので、検討願う。

多様性、世代間の交流があるし、先ほど市長がおっしゃられた国際交流の視点もある。交流を促進させるためにICT等の技術の活用することも大事になり、相互に関係している項目ですので、そのつながりも検討願う。

(委員)

人口減少については、部会でもお話ししたが、広報ひみを見ても人口が減少している。自然減については、出生数を死亡数から引くと完全に死亡者数の方が多い。転入出についても、転出が多い。氷見市から出ていく若者に氷見市の出身だから、氷見市を愛しているのなら留まって欲しい等と訴えてもそれだけではうまくいかない。10年間で人口減少を食い止めることは、とても結構なことであるが、現時点でも少しずつ減少している状況である。その減少数が少なくなっているのであれば良いが、そのようにはなっていない。何故なのかという事を考えていかなければならない。言葉だけではなく、どうしたら人口減少を食い止められるか真剣に考えなければならない。

事務局にお尋ねするが、用途区域、都市計画区域について見直しをされたのか、令和2年4月1日から見直しをした新しい区域があると思うのですが、教えて下さい。

若い人で結婚をしていない人は非常にたくさんいる。結婚する、しないは自由であるとは思いますが、氷見市も工夫を凝らしていく必要があるのではないかと思う。

(会長)

都市計画区域について質問を頂いた。それから、結婚のサポートについても提案頂いたが、氷見市での取り組みがあれば、回答願う。

(事務局)

用途区域については、現段階では見直し作業ということは行っていない。用途区域の中にはまだ開発目標が充分発揮されていないところがたくさんある。そういうものの整理を踏まえた上で新たな用途区域の拡大あるいは現在の区域の見直しということになってくる。今現在、用途の見直し等の作業は進めていない。

(委員)

これから氷見市が前に進んでいく時に用途区域の見直しをしていないというのはいかがなものか。見直しがされたのは昭和51年である。それからどれだけの年数が経っているのか。随分時間が経っているのに都市計画審議会の議題にも課題にもならないというのはいかがなものかと思う。

(会長)

用途区域においては、いろいろとあると思うが、総合計画で考えるとどのようなまちづくりをしていくのかというところで関係してくる意見だと思う。長期の視点で今後の氷見市のまちづくりを見据えた総合計画を考えていく上で非常に大事であるので、このような意見があったことは事務局で検討頂ければと思う。

(事務局)

結婚を促す施策であるが、現在氷見市では、市民の有志の方々が「縁結びおせっかいさん」というグループが立ち上がっている。非常に積極的に活動している。その中で、会員を募り、お引き合わせする縁結びのお見合い会等をしている。また、「HIMI×KOI×DEAI」というネーミングで婚活イベントを企画して頂いている。去年はコロナ禍でなかなかたくさんの方が集うイベントはできにくい状況でしたが、個別に相談に乗りながらご縁をつなぐ活動をして頂いている。

(市長)

用途区域の補足をさせて頂く。用途区域は農地と住宅の土地利用に規制した制度である。氷見市は昭和51年の時代にしたが、氷見市ではその時々で用途区域を設定しており、なかなかそこに住宅が立地しなくて、農地のまま多数残っている状況である。今後、必要に応じて用途区域の見直しもすることになるが、現状では十分用途区域の中で相当の住宅用地が残っている状況であることから、これまで見直しが行われてこなかった訳である。

婚活イベントであるが、「縁結びおせっかいさん」にご尽力頂いており、縁結び会が平成29年に設立され、10組ぐらいの成立があった。また、市独自でもこれまで婚活イベントを実施していた。今年度はコロナ禍で人数が少ないイベントになっているが、年3回程度、市独自の企画も実施している。まずは、結婚して頂き、手厚い子育て支援、そして、若者には高校卒業後氷見市を離れ、都会で活躍した後に氷見市に戻って頂きたいとの思いがある。ブリ奨学プログラムもあるので、氷見市に若い方々が残って頂くように施策を進めていく。

(委員)

先ほどから話しに出ている、「人口減少を食い止める」ということが、基本理念の中でも、非常に強調されており、何としても人口減少を食い止めるという決意が感じられるが、理念として、人口減少を食い止めるのは非常に大事なことであるが、一方で人口が減少しても持続可能な社会を目指すという理念の方が良いのではないかと感じる。なんとか減少を止めたい思いはあるが、目指す都市像としては、人口減少は止められない部分があるので、そこは少し文言を変えても良いのではないかと感じる。基本目標と政策ですが、「働きたい街」の中の4つの項目以外に「福祉・健康」「防災・消防」「地域振

興」「子育て」「教育・生涯学習」を「働きたい街」の中に組み入れても良いと思う。書き方は非常に難しいとは思いますが、4つに括ってしまうことが、多様性や若い人達の働き場の場等で考えるともう少し広げた方が良いと思う。

(会長)

第1回の審議会や各部会でもでてきた人口減少の問題において、基本構想としてどのようなスタンスで運んでいくかという意見を頂いた。目指すところは同じだと思うが、「人口減少を食い止める」という考え方と「人口が減少しても持続可能な社会情勢の変化に即したまちづくりをする」ということである。このどちらが今後の基本構想として市民の皆様にアピールできるのかということも踏まえて、いろいろ書き方はあると思うので、ご検討願う。ここは絶対に「人口減少を食い止める」というものでないという意見もあると思う。そのような意見があればこの場でお聞かせ願う。

(委員)

基本理念ですが、氷見市の良さを考えた時に案の中に「地域社会の中に色濃く残っている人と人との絆を大切にし、地域での支え合いの仕組みを構築するなどして地域力の向上に努め、市民が心身ともに健康に暮らすことができる」とある。故郷の良さとして、理念として、これからも10年後も更に20年後も大切にしなければならない文言である。先ほどからの人口減少の話にもあるが、地方には本当に深刻な問題である。地域のつながりも薄くなり、これまでとは随分違ってきている。提示された基本理念はあらためて強く見直ししながらこの文言はずっと残して行って頂きたい。残していくためにはどうすれば良いかを皆様で考えて頂きたい。

目指す都市像ですが、「住みたい街」「働きたい街」「育てたい街」ですが、「街」が続き特に漢字表記である部分も気になる場所である。ひらがなにしても「まち」が続くことに違和感があり、違う表現方法がないかと感じた。

(会長)

「地域社会の中に色濃く残っている人と人との絆を大切にし、地域での支え合いの仕組みを構築するなどして地域力の向上に努め、市民が心身ともに健康に暮らすことができる」の文言は氷見市らしいと感じる。ここはぜひ大切にしていって頂きたい。

「住みたい街」「働きたい街」「育てたい街」という「街」が特定のイメージに捉えられがちのご心配されているのかなと思う。表現の仕方は難しいと思う。ひらがなの「まち」にしてきちんと説明をつけるという形もあるかと思うし、少し違う言葉で表現する形もあるかと思う。そこは工夫のしどころだと思うので、よろしく願います。

(委員)

わたくしは氷見市外に住んでいる者ですが、祇園祭り、ごんごん祭り、まるまげ祭りは江戸時代から続いていると聞いている。このような祭りの文化は、歴史文化でもあるし、市民にとっても自信と誇りにつながる文化だと思う。目指す都市像に「人 自然 食」とありますが、そこに文化という文言があっても良いと感じた。

(会長)

「人 自然 食 文化」も入れてと、大変豊かな文化を持っているのだからということだと思うが、市外の人のの方が分かたりすることもあるので、意見を参考に検討願う。

(委員)

医療に携わる者とする、第9次氷見市総合計画の基本理念の中に高齢者という言葉が出てこないのが不思議な気がする。今からの10年の氷見市を考えた時に高齢者にどのように生きて頂くかということは避けて通れないことなのに視点が全て若者や女性に集中している。未来の話をする時に高齢者の話しはし難いということがあるかも知れないが、氷見市の総合計画には高齢者も安心できる等の言葉が何も出てこないのは不思議である。

先ほどから人口減少の話が出てきているが、客観的な言い方をすれば減るのは間違いない。この10年間で人口減少を食い止めることがいかに重要だということを言わんとすることは分かる。しかし、人口減少を食い止めるという言葉は強すぎる感じがする。おそらくここで言いたいのは、若い人、労働人口いわゆる元気な人の人口減少を食い止めることなのかと思う。その辺りも10年間で人口減少を食い止めると言われると、本当のことが伝わらないような気がする。だからどういう言葉にすれば良いのか、高齢者という言葉を入れても良いのか分からないが、抜けていることには非常に違和感がある。

(会長)

人口減少のお話で、「食い止める」という表現ですが、先ほども「食い止める」10年間よりも「持続可能な」仕組みの体制をつくっていく10年間という意見があった。前向きな形でご検討頂きたい。

若者というところが1つのキーワードと言いましたが、今後氷見市で暮らす市民の方々のかなりの割合は高齢者の方々である。高齢者の方々に活躍して頂かないと今後の氷見市は成り立っていかないという点も出てくるかも知れない。そこを基本理念で記すのか、政策のところで記すのかということですが、全ての世代がというのがSDGsの理念でもあるので、ご検討頂きたい。

(委員)

基本理念に「本市のまちづくりを展望するとき」があり、「まちづくり」がひらがな

で書かれている。先ほど基本目標の「住みたい街」等の表記のことをおっしゃっていらっ
しゃいましたが、やはり漢字ではなくひらがなで「住みたいまち」と表記の方が柔ら
かくて良いと思う。

政策ですが、「住みたい街」の中に芸術・文化も入れては良いのではないかと思う。
「育てたい街」に入れておかなければならないのか。

(会長)

決して「育てたい街」でなければならない訳ではないし、2カ所に入れても問題はな
い。先ほども意見があったように様々なところで関係していくことはあるので、芸術・
文化、スポーツを含めて「住みたい街」に関係してくるのかも知れないし、これが豊か
になればここで働きたいとなるかも知れない。高い注文を出しますが、相互に関係して
いるつながりは示しつつ、しっかり項目建が伝わるような形で検討頂きたい。

(委員)

目指す都市像で、「未来をつくる交流都市 ひみ」という文言で「交流都市」を入れら
れたのはどうしてか。「未来をつくる ひみ」でも通じるように思う。「交流都市」を強
調して使われている理由をご教示願う。

(事務局)

「交流都市」はこれまでも掲げており、観光地として内外から来て頂きたい街、氷見
を目指してきた。また、その訪れた方々等、人と人との交流が生まれる街を目指してき
た経緯がある。近年はそれに加え、海外との交流も積極的に行っている。そういったこ
とから、今回も観光、国際交流等人が来て頂けるような街にしていきたいと思っている。
人口が減少している中で、外から人が来て頂く視点も大事ではないかということで、「交
流都市」という言葉を掲げている。

(会長)

少し前に「交流人口」という言葉がキーワードになったが、それに限らず他の地域、
国の人達と交流を持ち、活力を高めていく考え方は大事である。

(委員)

先ほどから皆様は、基本理念の中から人口減少の話しをしておられた。近年氷見市で
生まれてくる子の数がだいたい200人くらいである。極端なことを言いますと氷見市
に中学校は1校か2校で済むのではないかと思う数である。現在小学校は10校あるが、
この200人の子供を10校の小学校に分けてやっていくのか、1学年100人くらい
を維持するような大きな学校に統合していくのかということをお早い段階で、これから子

供を産み、育てる方々に発信していく必要があるのではないかと思います。私自身も子供を持った時にこの子の学年は何人くらいいるのか非常に気になった。早い段階で発信していくことが今後若い方に氷見市に居ようか、それとも他に移ろうかという判断材料になるのではないかと思います。

(会長)

子供の保護者であれば、誰しものが考えることだと思います。子供が産まれてすぐに小学校、中学校に行く訳ではないが、その何年か先にある小学校、中学校はどうなるのだろうかと思いはなる。どこで子供を育てようかという時にとっても大切な情報になるのかなと思う。統合等については個別の計画の中でしっかりされるのだと思うが、第9次氷見市総合計画の中の基本目標に「育てたい街」とあるので、氷見市で子供を育てようと思う保護者の方々が心配されることをどのように解決していくのかということは政策レベルでもしっかり表記しておいた方が良いと思う。

基本理念の中で様々な意見を頂いているが、政策のところは項目だけ並んでいる。ここにどういう政策をピックアップしていくのかということであるが、イメージとしては、第8次氷見市総合計画では政策というのは資料4に書いてあるようにリストアップされているが、このように取り上げるもの、あるいはもっと具体的な基本計画で取り上げるべきもの、基本構想で取り組むという姿勢を明確にしていたら良いのではないかと思います。この視点からでも結構ですので、ぜひ、意見をお聞かせ願う。

(委員)

先ほど、祇園祭り等の祭りの話があった。内側から役員の方々の話を聞くが、人口が減少し、祭りの継承が難しくなっているということである。獅子舞等氷見市独特の文化があり、地域で賄っている。あと数年すると祇園祭り等継承し、継続するためにはお年寄りからお金を集めなければならない状況になっている。基本理念の中に「地域社会の中に色濃く残っている人と人との絆を大切に、地域での支え合いの仕組みを構築する」とあるが、芸術・文化的なことを支援するということが若者の負担も軽減し、芸術・文化を支援していくということがあれば、総合的に人口の流出を影から止められるのではないかと思います。芸術・文化の継承にもっと補助が受けやすい環境になればと思う。

(会長)

文化はその地域のプライドにもつながるし、持続可能な地域をつくっていこうという大きなモチベーションにもなる。行政がどのような形で支援していけるのか、どのような形で地域の方々と一緒に創り上げていくべきなのか、いろいろな考え方、議論がある。総合計画で具体的に書くことができると思う。一段高い議論で芸術・文化・スポーツを目標立てしていけば良いのか、今日は芸術・文化についてお二方からご意見頂いたので、

考えて頂きたいと思う。

(委員)

氷見市に新しい会社を誘致するという事はなかなか難しいことだと思う。中学校2年生は14歳の挑戦で氷見市の企業に行っているが、私の会社でかつて14歳の挑戦で受入れた子が会社に興味を持ってくれて後に入社してくれた経緯がある。「氷見市が日本の農業遺産に認定されたことで後継者が必要になってくると思う。「育てたい街」の教育の中で、地場製品の良さを教育し、その先に「住みたい街」がくる等、4つの項目を網羅した形になるのかなと思う。地場製品の教育を受けてそのまま氷見市で住み、働くということにつながるのではないかと思う。また、若い方が高学歴を目指すのはその先に高収入ということがあるからではないかと思う。林業や漁業が実際どの程度の収入があるのかはわからないが、そういったところの魅力もないと後継者はできないのではないかと考えた。私の上の子は6歳ですが、車が好きなのでJAFで働きたいと言っている。氷見市にJAFがなければ若者が1人氷見市から出ていってしまうので、教育で氷見市には良い職場があると氷見市に1人若者が残り働いてくれるのではないかと思うので、そういったことを考えていきたいと思った。

(会長)

育てるという事は働くということにつながり、住むということにつながり、相互に関係している。職業体験をすることで地元企業の良さを感じ、第一次産業の良さを伝えていくことが大事で、まずは情報提供が大事だと思う。大学でもインターンシップ等様々な形で職業体験をさせて頂いている。今般の新型コロナウイルス感染症拡大の問題を捉えて、若い人達の意識が変わってくるのかも知れないと思うので、その辺りも含めて「働きたい街」をどのように政策立てしていけば良いか考えて頂きたい。

(委員)

氷見高校では氷見市役所の方々や地域の方々とは地域連携を進めている。具体的にはHIMI学というものがあるが、1学年の時に生徒達が実際に地域に行って地域のためにアクションしている。林業について課題を進めていた生徒がいたが、将来林業をしても良いかなという言葉があった。高等学校での取り組みが将来氷見市に戻ってくる手助けになるのではないかという思いで活動させて頂いている。総合計画というところでは、氷見高校は県立ですので、出てこない部分になってしまうのかも知れないが、氷見高校は氷見市から援助を頂き、相互関係もできているので、小中高一貫で計画を立てて頂けたらと思っている。

(会長)

氷見市内に高等学校があることが大事な資源だと思う。氷見市で何ができるのかを模索して頂きたい。高校生には氷見市の良さを知ってもらい、氷見市を素材にいろいろ勉

強してもらうことが良いと思う。ここ数年氷見高校に授業に行っているが、生徒の方々は地元のことを含めていろいろと勉強している姿をみて素晴らしいなと思っている。そういう人材が毎年、氷見高校から巣立っているのだということを活かしてもらえたらと思う。

(委員)

商工会議所女性会の活動は、下は20代、上は90代の会員で活動している。活動内容の中には介護高齢者の暮らしやすさについて考えている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、いろいろな活動がなくなった。その中で、お話を聞いていると、「孤独になっている」ということが1つのキーワードになっている。氷見市全体を考えると、山の方で一人粛々と暮らしている高齢者がおられると思う。そういった方が、今年の大雪の時に悲しい事故に遭われた。孤独になると突然亡くなったり、災害に見舞われても突然亡くなることもあるのだと実感した。安全・安心で住み良い場所に「孤独にならない」という言葉もぜひ入れて頂きたい。

若者や女性だけではないという意見もあったが、性別を超えたいろいろな方々のサポートもぜひ加えて頂きたいと思う。

氷見市は犯罪が少ないと言われているが、残念ながら罪を犯した方が氷見市に住めないという事情もあり、他市に出ていく。他市に出ていかなければならない場所ではなく、サポートできる場所にならないかと、見守って支え合う場所であって欲しい。

(会長)

高齢者の孤独感について、おそらくこれから人口減少に伴い、そういう方が多くなっていくと思われる。若者というところに力を入れているが、若い方が氷見の地を選んでもらうことは、ここで年を重ねていこうという想いがあるからだと思う。その辺りは先ほども意見があったが、高齢者という視点、例えば「住みたい街」で防災、福祉・健康で書いていかなければならないと思う。どういう風に表現していけば良いか考えて頂きたい。人材の多様性、多様性を受入れるということはSDGsの基本理念であるので、考えていただければと思う。

(委員)

人口減少の問題が大きく議論されているが、人口減少を止めるというか緩やかにしていく方策は3つしかないと思う。1つ目は子育てをしやすい環境をつくって出生率をあげる。2つ目は移住。3つ目は移民。この移民の問題はセンシティブで議論し難いテーマで、いろいろと制約がある。個人的には、拓かれた交流都市ひもと考えた場合には、移民というものを正面から考えていく必要がある。核家族の移民が子供を2人連れてくれば、子供は20人になる。先ほど、同学年が200人というと20人はインパクトが

少なくないと思う。私が言う移民というのは単純労働者としての移民ではなくて、高度専門人材、高い技能力を持った人材を積極的に受け入れていったら良いと思う。他の地域が取り入れていない今だからこそ氷見市が先駆けてやれば地域に対するインパクトも大きいですし、また、そういう能力を持った方が来て頂ければ、氷見市の産業の発展にとっても起爆剤になるのではないかと思う。行政として移民政策について現状どのような考えを持っているかご教示願う。

(市長)

移民ということで、おっしゃられているのは高度専門人材ということで、国においてもこれまで技能実習生と言っていたが、例えば、介護の現場等いろいろなところで不足している訳であるが、これについては各自治体それぞれの考え方だと思う。氷見市で過去にあった事例を申し上げますと、日本で介護の人材が不足している、中国でも今後介護が必要な高齢者が増えてくる。寧海県と海外友好交流都市協定を結んだが、寧海県から4回ほど20人程度氷見市に1週間研修に来られた時があった。日本でも中国でも介護の人材が必要だということで、氷見市の空き校舎を活用して中国人を主体とした介護の学校を開業したらというお話しがあった。相当の中国人が地域に入ることについて地元の方々と話し合いをした。そういったことにアレルギーを持つ方もおられるので、難しいと実感した。ある地域に特定の国の方が集まるのが問題だったのかなと思う。少しの方が市内の広い範囲にいたのであれば、可能なのかなと実感した。高等専門人材の海外からの氷見市への移住については、今後も市民の理解を得る形で行っていくべきと考えている。

(会長)

移民というのは人口を増やすためには1つの方法であるが、市長がお話しされたとおり、様々な問題があり解決していかないといけないことであると思う。例えば、日本の大学あるいは大学院段階から海外から来ている留学生たちは、日本で働きたいという希望を持っている子がたくさんいる。そういう方達に目配りしながら住んでもらうあるいは働いてもらうという方法もあるので、考えて頂ければと思う。

(委員)

基本理念の「地域社会の中に色濃く残っている人と人との絆を大切にし、地域での支え合いの仕組みを構築するなどして地域力の向上に努め」の部分であるが、このセンテンスが言いたいことと表現されていることがズレているように思う。

「持続可能な自治体経営の確立」ということが、第8次氷見市総合計画にもあったが、この「持続可能な」という表現が良く分からない。私達は常に持続可能な経営をしているが、自治体経営で持続可能なという表現としてはどうなのかなと思う。

(会長)

「地域社会の中に色濃く残っている人と人との絆を大切にし、地域での支え合いの仕組みを構築するなどして地域力の向上に努め」の部分については、表現を再考して頂ければと思う。

「持続可能な自治体経営確立」であるが、ここは言葉を変えた方が良いと思う。「住みたい街」「働きたい街」「育てたい街」ときて「持続可能な自治体経営確立」とくるとこれだけが行政のこと、行政のやることみたいなイメージにも捉えられかねない感じがする。ここも市民と行政とでつくっていく総合計画という視点で考えて頂けたらと思う。

「持続可能な自治体経営」とは、いいたいことは良く分かる。考えてみると「持続可能」とはどういうことなのか。自治体が無くならないようなことなのか。お金の面のやりくりの面で破綻しないことなのか。でもそういうことではないので、ここはもう一度考えてみて下さい。

(委員)

第一部会で出た皆様の意見を概ねここに記させて頂いた。いろいろなお話を伺っているともう少し加えなければならぬこともあるのかと感じた。基本理念に対して加えるとすれば未来技術、SDGs、多様な人材のこの3本柱を理念の中に入れて込んで、氷見の良さ、自然環境等が氷見の良いところである。そうしたところで育まれた文化や人間関係が持続できるようにし、そして、人口変動が大要素か中要素か小要素かはわからないが、いずれ日本全体が減るので、その中で持続できること、30年、40年見据えて部会で考えたのですが、その中の10年を情報技術をいかに整理して環境を整えて、人が多少減っても持続できるような街、しかも、中から発信をすれば外から人が必ずやって来て交流が派生する。こういうことを描きながら基本理念を書かれたと思うが、もう少しグッとくるような文章表現に変えたら良いと思う。文章表現を聞く人の心を掴むようにして欲しい。

第8次氷見市総合計画では、暮らしたいそして人をつくってそれがその街の繁栄産業につながっていく流れでした。今回は、住みたい街があり繁栄のものである産業やそれを支えるものそして人をどうつくっていくかという順番が変わっているので、この辺もストーリーを考え直していったら良いと思う。骨子としては、第一部会の意見がだいたいい反映されていると思う。

(委員)

私の住んでいるところは論田という山を越えれば石川県になるところである。最近、関東圏からの移住者が村に入ってきて、少しずつ村が安定するような雰囲気が出てきている。村の人達と新しく入ってきた人たちがうまくつながっていけばいいと思う。今一

番欲しいのは、子供達の賑やかな声である。県外からの移住の方が経営資源がたくさんある氷見市に入ってきてくれたら良いといつも思っている。よく教育の話をするが、氷見市の教育力は非常に高いし、保護者も力を入れているので、そこを大事にして頂きたい。これは氷見市が持っている財産のひとつだと思うので、大きな声で氷見市の教育は良いということを伝えて欲しい。氷見市の持っているエネルギーや財産を大事にして頂きたい。

(会長)

今ほど発言頂きました好事例を共有してそこから学んでいく仕組みをつくるのも行政に課せられた大きな役目と思うので、検討願う。

(委員)

第三部会で出た意見を補足すると、一流の田舎を目指すという考えがあり、そういう方向性も考えられるのではないかと思う。産業にもう少し重点を置くべきと思った。地域の活性化、地域のいろいろな課題を解決していく基礎は、産業がいかに活性化するかに関わってくる。産業の視点をより強く計画の中に盛り込んで欲しい。21世紀にふさわしい産業構造に地域が転換していけるかどうかは課題解決するための基本になる。

農業、林業、漁業の第一次産業の魅力アップ、機械化等含めて生産性を向上して、若い人達が働きたいと思うような産業に転換していくことが必要。氷見市の産業はポテンシャルを持っている。これを今後の政策の具体的なところでどう盛り込むのかということだと思う。

若い人たちの活躍で、起業環境を整える、いかに起業しやすい環境をつくっていくかということである。DXを活用しながら起業環境の整備をしているいろいろな人が氷見市に来て起業するという環境をぜひつくって頂きたい。それがひいては若者の活躍や人口減少を食い止めることにつながっていくと思う。先ほどの移民の話もできる限りのところで取り組んで欲しい。

(会長)

産業は全てのところに関わってくる。今回縦軸で整理しているSDGsや多様な人材の活躍が相互に関係しているので、検討して頂ければと思う。

(副会長)

皆様からたくさんのご意見を頂いた。また、第一部会から第三部会の基本理念、目指す都市像、基本目標を見させて頂いた。人口減少が一番の問題なのかなと感じた。基本理念の中で「人口減少を食い止める」とある。今後10年後、氷見市の人口は予想では今よりも1万人減り、3万6千人くらいになる。皆様の町内等でも著しく人口減少が進

んでいると思う。自治会も限界集落になっているところも出てきており、自治会も合併していかなければ運営ができなくなるところも目先にある。この10年でいかに人口減少を止めていくことが重要ではないかと思っている。

若者がいかに氷見市に来てくれるのかということも大事だと思っている。移民の問題のお話しもあった。政策が項目だけ掲載されているが、人口減少について、市外からの移住という形も検討する必要があると思う。都市計画の中で利便性の高い生活基盤の宅地整備という情報も入れて頂ければ人口増加にもつながっていくと思う。

(会長)

ありがとうございました。本日は、委員の皆様には、大変貴重なご意見を頂き、感謝申し上げます。本日、ご発言頂けなかった方は、後ほどでも結構ですので、意見が出てきたら、事務局にお知らせ願う。

以上で本日予定しておりました議事は終了した。事務局に進行をお返りする。

(事務局)

ありがとうございました。今後の日程についてご連絡する。

本日ご意見頂きました基本理念、目指す都市像、基本目標について、再度事務局で内容を検討、精査する。そして、現在、項目だけになっている政策についても示し、次回皆様にご提示し、ご意見を頂きたいと思う。

次回の開催は、4月中旬を予定している。詳しい日程については、ご相談の上、ご案内する。よろしく願います。

閉会にあたり、市長より皆様にご挨拶する。

(市長)

本日は、長時間に渡り忌憚のない貴重なご意見を頂き、感謝申し上げます。

人口減少、IoT、AI、DX等の技術を活用するプロジェクト、若者、高齢者、様々な世代が活躍できるようにお話しがあった。この総合計画は、市の計画の中でも最上位の計画である。第9次氷見市総合計画は、令和4年からの10年間の氷見市の将来のビジョンとなる。その中で、若い方からお年寄りまで氷見市に暮らす皆様がワクワクするような、未来に希望を持てるような計画づくりをして参る。本日、皆様方から頂いた貴重なご意見も反映させ、立派な計画としたいと思っている。本日は、誠にありがとうございました。

(事務局)

以上を持ちまして、第2回氷見市総合計画審議会を閉会する。皆様方、どうもありがとうございました。

